

**早急に、高浜原発3・4号機の再稼働に反対を表明し、中止を求めてください
福井県知事と高浜町長の了解だけで再稼働を進める関電に抗議してください
安定ヨウ素剤が適切な時期に服用できるよう整備してください**

質問・要望書

2017年5月25日

米原市長 平尾道雄 様

日頃より米原市民の暮らしを守るためにご尽力いただき、ありがとうございます。
また、市民と協力して琵琶湖の水源である「水源の里」米原の自然を守ってくださっていることに感謝いたします。米原市が東日本大震災の教訓から進めておられる、要支援者一人ひとりの避難支援プラン「個別計画」づくりは、他の自治体でも米原市を見習って是非進めていただきたいことと思います。

さて、今月17日、立地地元福井はもとより、風下の滋賀、京都、兵庫、大阪など関西一円の多くの住民の不安もよそに、関西電力は、高浜4号機の原子炉を起動させ、22日には、4号機にとっては初となるウラン、プルトニウムの混合酸化物(MOX)燃料を使った超危険なプルサーマルで発送電を開始しました。ひとたび高浜原発で事故が起これば、滋賀県・関西全域に甚大な被害をもたらします。滋賀県内に落ちた放射性物質は琵琶湖に運ばれ、私たちは近畿の水源を失うこととなります。

福井県知事は、4月25日に県庁を訪れた関電社長に対し、無責任にも再稼働を了承しました。しかし関電は、地元のみならず30km圏内住民に対して、説明さえしていません。原発から30km圏内に暮らす滋賀県、京都府のおよそ18万6千人の意見は無視されたまま、福井県知事の了承のみで再稼働が進みました。

滋賀県知事は今回の再稼働前から「実効性ある多重防護体制の構築が道半ばであり、併せて、使用済核燃料の処理や、廃炉に向けた対策などが未整備のままであることなど、国全体として原子力政策についての根本的な議論や解決策が見られない」のが現状であるとし「再稼働を容認できる環境にない」と再稼働に反対を表明されており、再稼働後もこの姿勢は変わっていません。京都府は4月25日に、再稼働の説明に来た関電に対して、クレーン事故は解決していないため再稼働の説明は受け入れられないと告げ、同意していませんでした。

また、2月16日、4月7日の京都府7市町地域協議会・幹事会では、関電が示したクレーン倒壊事故の「改善措置」や「総点検結果」に対し、関電の安全管理全体に関する厳しい意見が出されています。また、私たちは、7市町自治体をはじめ京都府・滋賀県等の自治体に申し入れを行ってきましたが、そこでも「しっかりと安全対策が示されない限り再稼働は認められない」と、多くの自治体から意見を聞いてきました。

[資料1 京都・滋賀の自治体申し入れ報告]

さらに、4月24日に名古屋高裁金沢支部で行われた大飯原発運転差止裁判で、前規制委員会委員の島崎邦彦氏が証人として出廷され、入倉・三宅式による基準地震動は過小評価で再稼働

の許可を出してはならないと証言されました。高浜3・4号も同じ方式によって基準地震動が決められており、稼働状態では事故の危険がさらに高まります。また、実効性のある汚染水対策も取られていません。

避難指示が出される可能性が高いUPZ圏でも安定ヨウ素剤の事前配布が実施されておらず、避難弱者の避難手段等も具体化されていません。このように避難計画に実効性もない中で、さらなる再稼働が進められることは許されません。

また、関電が高浜原発3・4号機両機で行うプルサーマルに使用される、フランスのアレバ社で製造されたMOX燃料の品質管理データは非公開のままです。MOX燃料の規格と品質管理について、フランスの原子力規制機関も原子力規制委員会も管理・監督をしていません。関電は以前に、英国のBNFL社で製造されたMOX燃料にデータ不正があることを知りながら、それを隠してプルサーマルを開始しようとしていました。このような体質の関電が、原発を管理・操業することは非常に危険です。

今村前復興大臣は、「自主避難は自己責任」「あちら（福島）でよかった」等の暴言により、厳しい批判を受けて辞任しました。原発事故被害者を切り捨てながら、再稼働が進められていくことに、多くの人々が憤りを感じていることを示しています。

米原市住民が原発事故によってふる里を奪われ、原発事故の被害者となることがないように、市民ならびに関西一円の命と安全な暮らしを守るため、高浜原発の再稼働に反対を表明してください。

下記の要請事項と質問に答えてください。

要望1 高浜原発3・4号機の再稼働に反対を表明し、中止を求めてください。

福井県知事と高浜町長の了解だけで再稼働を進める関電に抗議してください

今年1月に起きた高浜原発でのクレーン倒壊事故は、関電に染み付いた安全性軽視の体質をまたもさらけ出しました。関電が敦賀労基署に提出した「改善措置」は、「暴風等の情報について、日本気象協会からFAXを受領する運用を開始」等です。何をかいいわんやです。さらに、関電が4月7日に福井県や京都府等に提出した「総点検結果」では、相も変わらず、「社長が先頭に立った安全最優先の再徹底」「揺るぎない安全文化の構築」等々です。2004年の11名もの死傷者を出した美浜3号機事故以降、関電が述べてきた「安全文化の醸成」を繰り返しているだけです。クレーン倒壊事故は、美浜3号機事故からも、福島原発事故からも何も学んでいないことを示しています。

< 関電の改善措置 >

- ・ 自然環境の悪化に係る情報（大雨、暴風等）について、日本気象協会からFAXを受領する運用を開始。

「高浜発電所2号機クレーン倒壊にかかる敦賀労働基準監督署からの指導票に対する改善措置の報告について」 3月29日 関電HPより抜粋

高浜原発の地元である高浜町・音海区自治会は、11名もの死傷者を出した美浜3号機事故や、福島原発事故の「反省を感じ取ることはできません」「もう、関西電力は取り返しのつかない大

事に至る前に、原発から撤退し、別の発電方法への転換を考えられた方が良いのではありませんか。」と厳しい意見を関電に提出しています。[資料2 音海地区意見書]

5月1日に舞鶴市に私たちが申し入れた際に、舞鶴市は下記を回答され、関電の安全管理全体が改善されなければ再稼働は認められないと表明しました。

舞鶴の回答：

高浜発電所では、管理区域内における水漏れ、原子炉自動停止、クレーン倒壊等、3つの事故が起きているが、関西電力の安全対策・再発防止策の説明は不十分である。

P A Z 区域を有し、住民避難訓練等立地自治体と同等の対策を講じている舞鶴市の理解を得ることなく、3・4号機の再稼働が論じられることは誠に遺憾であり、舞鶴市民の安全・安心を守る市長として、引き続き納得のできる安全対策・再発防止策の説明を求めてまいりたい。

【質問1】クレーン倒壊事故の「総点検結果」は不十分なので、「再稼働は認められない」と表明すべきではないですか。

要望2 とりわけ、5月11日に関電が出した下記の「安全対策」について、米原市としても内容を確認してください。

5月11日「地域協議会幹事会資料2」「クレーン倒壊事故を踏まえた改善について」関西電力 <http://www.pref.kyoto.jp/kikikanri/news/documents/290511shiryou2.pdf>

○なお、東日本大震災並みの大地震では、クレーン等が転倒、破損するリスクがある。この場合でも、原子力の安全機能は2つ以上の設備や機能を備えており、クレーン等の転倒、破損によって全ての安全機能が失われることのないよう、クレーン等の配置・使用を配慮している。(上記資料6頁)

これは、大地震でも、地震そのものによっては決して機器が壊れることはないこと、クレーンの倒壊によってしか機器が壊れる可能性はないことを前提にしているように読み取れます。しかし、東日本震災並みの地震で少なくとも片方の機器が壊れることを前提にすべきです。その場合、どちらの機器が地震で故障するかはあらかじめ分かるはずがないのに、どうして同時故障が起こらないようにクレーンの配置を決めることができるのか、関電に説明を求めてください。

要望3 安定ヨウ素剤が適切な時期に服用できるよう整備してください。

安定ヨウ素剤は、事故時に迅速に服用しなければ意味がありません。市内数か所で分散備蓄するだけでは不十分です。事故時に身を守れるものは、避難と安定ヨウ素剤しかありません。

滋賀県ではUPZ内の学校・幼稚園・保育所・病院・福祉施設等の避難弱者施設で安定ヨウ素剤が備蓄されています。私たちは、2016年10月27日、「若狭の原発から30km圏内 京都府・滋賀県の保育所・学童施設等への原発事故時の避難計画に関するアンケート結果」を発行しま

した。[資料3] 幼稚園等の現場で、不安が最も多かったのは、安定ヨウ素剤に関するものでした。いくつかの幼稚園・学童施設を訪問しましたが、「避難時に対応することは難しい」「副作用のチェック等を事前に行い、事前配布が必要」等々の声を聴きました。

滋賀県が作成した大気シミュレーションモデルによる放射性物質拡散予測によれば、UPZ圏内にとどまらず、福井の原発から35～60kmの距離に位置する米原市にも被害が及ぶとされています。[資料4 滋賀県大気シミュレーションモデル]

また、2013・2014年に兵庫県が実施したシミュレーション結果（現在は県HPから削除）等からも、関西一円に事故の被害が及ぶことは明らかです。[資料5 兵庫県放射性物質拡散予測図] 兵庫県知事は当時、ブルームは最短2時間で神戸に達すると議会で答弁しました。

福島県には事故当時大量の安定ヨウ素剤が備蓄されていましたが、ほとんど配布されませんでした。福島県内の甲状腺がんは、悪性・その疑いがある子どもは185名（一人は良性）と公表されていました。

しかし実際には、大人も含めて1082名もの人々が甲状腺がんの手術を受けていたことが明らかになっています。さらに、千葉県等でも子どもの甲状腺がんの発症が確認されています。

福井の原発群から概ね35～60km圏内に位置する米原市は、シミュレーションで用いられている風速4mで予測しても2時間程度で放射性ブルームが到達することになります。

安定ヨウ素剤は、下記の日本医師会ガイドブックにあるように、被曝前あるいは被曝後早期に服用しなければ意味がありません。

安定ヨウ素剤の服用時期と効果

放射性ヨウ素に曝露する24時間前	90%以上の抑制効果
放射性ヨウ素に曝露した8時間後	40%の抑制効果
放射性ヨウ素に曝露した24時間後	7%の抑制効果

日本医師会「原子力災害における安定ヨウ素剤服用ガイドブック」より

【質問2】 米原市では、米原診療所で安定ヨウ素剤を備蓄されているということですが、適切な時期に全市民が受け取れ、服用できるよう整備されていますか。

【質問3】 整備されている場合、それは夜間や荒天、また積雪、震災等で交通が遮断された場合も実行可能な計画ですか。

【質問4】 丸薬が飲めない乳幼児用のゼリー状ヨウ素剤の配備の予定はありますか。

2017年5月25日

避難計画を案ずる関西連絡会



(連絡先団体: グリーン・アクション/原発なしで暮らしたい丹波の会/脱原発はりまアクション/原発防災を考える兵庫の会/美浜の会)

この件の連絡先: 美浜・大阪・高浜原発に反対する大阪の会 (美浜の会) e-mail mihama@jca.apc.org

大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階 TEL:06-6367-6580 FAX:06-6367-6581